



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子！

2019年7月1日

No. 4

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：夢に向かって、主体的に学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成

目指す児童像：《一かしこくー 一たくましくー 一やさしくー》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子

心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやおき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

七夕の歴史・由来

七夕は「たなばた」または「しちせき」とも読み、古くから行われている日本のお祭り行事で、一年間の重要な節句をあらわす五節句のひとつにも数えられています。毎年7月7日の夜に、願いごとを書いた色とりどりの短冊や飾りを笹の葉につるし、星にお祈りする習慣が今も残ります。みなさんも子供のころ、たくさんの短冊をつるしておりひめとひこぼしにお願いごとをしたのではないのでしょうか？

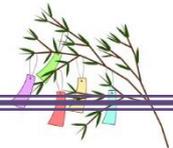
その起源には数多く説があります。

- (1) もともと日本の神事であった「棚機（たなばた）」
- (2) おりひめとひこぼしの伝説
- (3) 奈良時代に中国から伝来した「乞巧奠（きこうでん）」

という行事があわさったものと言われています。



《7月1日（月）七夕の日を前にして…（朝会講話より）》



♪～たなばたさま～♪

ききのはさらさら のきばにゆれる おほしきまきらきら きんぎんすなご
ごしきのたんざく わたしがかいた おほしきまきらきら そらからみてる

今日は、この歌詞にある「ごしきのたんざく」についてお話しします。

「ごしきのたんざく」というのはどういう意味でしょう。これは「五色」、つまり5つの色の短冊という意味です。

さて、ここでクイズです。この「五色」とは何色でしょうか？……

正解は、「赤、青、黄、白、黒・・・現在は黒の代わりに紫が使われています。」

さらに、短冊の色は、願い事によって書く色が決まっているそうです。

- 「赤」：感謝 ⇒ 親や先祖に感謝を表す願い事。
- 「青」：人間力 ⇒ 周りの人を忘れず、自分自身の成長を高めていく願い事。
- 「黄」：友情 ⇒ 人（友達）を信じ、大切にするような願い事。
- 「白」：きまり ⇒ 自分や学級で決めたきまりを守る願い事。
- 「紫」：勉強 ⇒ 勉強や運動など、頑張りたいと思う願い事。

願うだけでは、誰でもできます。みんなが短冊に書いた願い事に向かって頑張ることが大切です。頑張る姿はきっと神さまも見ていると思いますよ。

《6月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・



『みんなちがって みんないい』（金子 みすゞ）

金子みすゞさんは、大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人で、26歳の若さで亡くなるまでに、500余編もの詩を綴ったそうです。

その中で今回紹介したいのは「私と小鳥と鈴と」という詩です。（以下）

「私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。私が体をゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさん唄は知らないよ。鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」

この詩の中の私、これはみすゞさんのことです。小鳥、かわいい音の出る鈴が出てきます。みすゞさんが両手をバタバタしても飛ぶことができないが小鳥は飛ぶことができます。しかし、小鳥は速く走ることはできません。みすゞさんが体をゆすってもきれいな音を出すことができません。でも鈴はきれいな音を出せても、みすゞさんのようにいろんな楽しい歌は知りません。だから、鈴も小鳥も、そしてみすゞさんもそれぞれにいいところがあります。そこで、誰でも必ずいいところがあります。違うということはいけないことでなくいいことです。「みんな違ってみんないいんだよ。」と、みすゞさんが言っていると思います。

私たちは、自分と違うことがあると、変だとかおかしいと思ったりすることがあります。しかし、違うのは変でもおかしくもないことなのです。みすゞさんは、違うことはいいいことなんだと言っているのです。

私たちは、一人一人違います。同じということはありません。違うけど誰にでもいいところがあるのです。顔かたち、できることできないこと、どれを見ても同じではありません。しかし、「それぞれ何かしらいいところがある。だから、友達を大切にしなければいけない」と言っていると思います。

1学期も残り1ヶ月。誰にもいいところがあります。人は、顔かたち、仕草や行動などそれぞれ違うが、それはいいことではなくいいことである、という見方や考え方に気づかせたいですね。違うからといって恥ずかしがることはないし、馬鹿にすることはあってはならない、ましてや仲間外れやいじめになってはいけないということを再確認し、この金子みすゞさんの詩を通して、友達のいいところを見つけること、誰にも優しく接することを伝える意味で、活用してみてください。